

〔京都大学国際連携グローバル経済・地域創造専攻〕3つのポリシー

ディプロマ・ポリシー

京都大学国際連携グローバル経済・地域創造専攻における修士学位プログラムは、京都大学、グラスゴー大学、バルセロナ大学の3大学が共同で一つの修士の学位を授与する国際ジョイント・ディグリー・プログラムです。本専攻では、この3大学を含め内外の複数の大学が構成する「GLOCAL コンソーシアム」の多国籍的な教育資源を活用して、国際的な人材を育成することを目的としています。

そうした人材を育成するために、本専攻では、本学通則、経済学研究科規程、および本専攻に関わる大学間協定に基づいて、本研究科・専攻が定める教育プログラム履修上の要件を充足し、必要な単位を修得し研究指導を受けた上で、修士論文の審査に合格し、次の学修成果を達成した者に、修士（グローバル経済・地域創造）の学位（英語名称：International Master in Global Markets, Local Creativities）を授与します。

- ・社会的責任と研究倫理を自覚した学修とその成果が確認される。
- ・グローバル化とその下での地域の変容・主体性に関する歴史的素養と経済学的な知識を身につけている。
- ・社会や組織が直面する現実の問題について、批判的で分析的な思考を行うことができる。
- ・英語をアカデミックなツールとしても実践上の意思疎通手段としても活用でき、国際的な場で十分な意思疎通ができる。
- ・国際的な視野と異文化対応力を持ち、国際的な環境でリーダーシップを発揮することができる。
- ・修士論文が学術性を有し、学術的な貢献あるいは社会的な意義がみとめられる。

カリキュラム・ポリシー

本専攻での教育課程は、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、京都大学、グラスゴー大学、バルセロナ大学の3大学を含むGLOCAL コンソーシアムが全体として一体的な教育課程（GLOCAL プログラム）を編成しています。このGLOCAL プログラムには共同学位における大学の組み合わせが複数あり、全体として多種の国際共同学位を授与しますが、本専攻による教育課程はそれら複数の学修経路（スタディトラック）の一つであり、以下の方針でカリキュラムが編成されています。

1. グローバル経済と地域の関係についてグローバルな環境の下で学ぶために、GLOCAL プログラムに所属する多様な出身国・学修歴の学生全員が秋入学によりグラスゴー大学にて学修を開始し、複数の学修経路（スタディトラック）に岐かれつつ、一方向・同一時期の移動により、3つの国の3つの大学で学修します。
2. 第1学期（グラスゴー大学）、第2学期（バルセロナ大学）、第3学期（京都大学）においては、コースワーク中心に編成されたカリキュラムによってグローバル化とその下での地域の変容・主体性に関する基礎知識を学び、またこれを分析するための歴史的素養と経済学的な知識を修得します。
3. 英語をアカデミックなツールならびに実践上の意思疎通手段として使いこなすために、グラスゴー大学、バルセロナ大学、京都大学での学修の課程全体を通じ、英語によってプログラムを提供します。授業担当者の多国籍性、フィールド授業・グループ学習・サマースクール等を含む多様な内容と、第3学期・第4学期での少人数教育により、異文化対応力や国際的コミュニケーション能力を向上させ、リーダーシップを涵養します。
4. 批判的で分析的な思考を行うために、第1学期から第3学期で提供するコースワークは社会や組織が直面する現実の問題を扱う科目を含むものとします。第3学期には学位論文の主題に関する研究に着手するものとし、第4学期を、3大学教員による共同個別指導下で行う学位論文の作成（Master Thesis Research を履修）の期間とします。
5. 社会的責任に関する自覚を涵養し、研究倫理に関する理解を深めるため、関連の授業科目等を設け、また特別研究において個別指導を行います。

学修成果の評価は、各科目については、各科目の到達目標を基準に、研究報告や質疑討論等の質とそれによる授業への貢献度、筆記試験、レポート試験、口頭試問の結果によって行います。各科目の到達目標、評価基準、評価方法については、授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて明示します。

課程の最終学期に修士論文の作成が課されます。学生は、学修課程において修得した知識と素養、分析能力を活かし、課程修了の集大成として修士論文を作成します。修士論文の評価は、学術性の有無および学術的貢献あるいは社会的な意義を基準として行われます。

アドミッション・ポリシー

本専攻では、社会や組織が直面する様々な課題に対し、歴史的素養と経済学的な知識に裏打ちされた批判的で分析的な思考を生かして取り組むことができる人材、またグローバル化する今日の世界においてリーダーシップを発揮できる国際的な人材を育成します。そうした人材を輩出するために、選考にあたっては、以下の能力・意欲・経験を持つ人物を評価

する形で選抜を行います。

1. 批判的・分析的な思考力を持ち、自ら問題を設定できる。
2. 歴史に関する知識・関心を持つ。また経済学あるいはその他の社会科学的な諸領域について基礎的な学力を持ち、社会科学的な概念を扱うことができる。
3. グローバル化やその下での地域の変容への関心を持ち、社会や組織が具体的に直面する課題に対して、リーダーシップを持って取り組みたいという意欲を持つ。
4. 英語による社会科学系論文の文章論理を理解し、また自らの主張を英語による文章で表現できる。同様に口頭でのコミュニケーションでも意思の疎通が可能である。
5. 社会的責任と研究倫理を自覚し、それらを踏まえて学修する資質を持つ。

上記のポリシーを実施するため、本専攻の選考は、カリキュラム・ポリシーで示した「GLOCALプログラム」の選考の一部として行われます。ただし、出願者はあらかじめ希望する学修経路(スタディトラック)を定めた上で出願し、出願後はこれを変更することはできません。GLOCALプログラムへの出願者のうち、京都大学での学修を含む学修経路を選択して出願し、選考を経て入学を認められた者が、本専攻の所属学生となります。

GLOCALプログラムにおける選考は基本的に書類選考によって行われますが、本専攻を含む学修経路に関しては、口頭試問が課されることがあります。出願者は、GLOCALプログラムが定める共通の出願資格を満たす必要があり、それには以下のような要件が含まれます。

- 学士号を持つ者。特に、本プログラムの主題に関連する人文社会科学諸分野(例えば経済学、経営学、歴史学、経済史・経営史・社会史その他)に関する学士号を持つ者、あるいはそれと同等とみなされる者。
 - GPA基準で75%以上(国別のGPA要件については別途定めGLOCALのウェブサイトに掲載)
 - IELTS総合点6.5以上、能力別評定の全てが6.0以上

本専攻の教育課程を含め、GLOCALプログラムにおいては、入学者選抜にあたり、公平な選抜を実施しています。人種、宗教、性別、ジェンダー、年齢、国籍、政治的信条、障害等を理由に差別することはありません。